

名

刺に印刷された、不思議な
抽象図形をめぐって、いき
なり話がはずむ。

「骨?」「犬の手形?」「男の子と
女の子がハグしてる影絵?」どれ
も、違つ。答えは「わたしのポデ
イなんです」と福井純代さん。き
ょんとしている。「胸からおな
か全体にかけてカラーを塗って、
それを白い板にべたっと」と解説
してくれる。それって魚拓ならぬ
人拓!? うくん。いわれてみれば、
たしかに、いわゆるビュスティエ
の形。

このお茶目な人拓柄が、SUMIYOS
ブランドのロゴになった。SUMIYOS
の複数形を意味するブランド名は、
〈純代さんらしさが、多種多様〉と
いうニュアンスを含むらしい。

多種多様? 再びきょんとし
ていたのだが、お話をするうちに、
「多種多様とはいったい何のこと
なのか、驚きとともに知ること
になる。

そもそも、純代さんに会いにい
ったのは「バッグのデザイナーと
して」だった。本誌編集スタッフ
のひとりのことはがきっかけであ
る。「すっぴいかわいいう布製のバッ
グをもっている友人がいて、どこ
の? って聞いてみたら、芝浦の
ロフトで一人でバッグを作ってる
女性の作品ですって。」

というわけで、どこかニューヨ

ークのソーホーを思わせる芝浦の
工房にうかがった日は、純代さん
はアシスタントの方とともに、秋
冬のバッグの製作の真っ最中だっ
た。表のキョートな布地と鮮やか
なコントラストをなす裏地には芯
地をほり、底は二重縫い。だから
軽いの大丈夫。受注会でオーダー
を受けた分だけ、ひとつひとつ、
ていねいに作り上げる。ちなみに、
先シーズン作ったバッグは、見本
を含めて約80個。

「素材が、好きなんです。布と
か糸とかビーズとか。ポタン屋さ
んに行くよ、ゼーンぶ、買いたく
なっちゃう」という純代さんのア
イディア源は、素材そのもの。素
材に触れて、手を動かしているう
ちに、いろんなアイデアが出て
くるという。目の前にあるものを
使って、あれこれと考えるのが、
好きなんです。デザイン画は、描
かない。だから、「デザイナーとい
う職業にはぴったりにあてはまらな
いし、職人でもないし……うくん
……肩書といわれると、いつも困
るんです。作ることやコーディネート
イトが好きなん、にはちがいない
のですが(笑)」。

創作好きが長じて、最近では彫金
まで始めた。こんな指輪、どうで
しょう?」とマルチ十字型の試作
リングを見せてくれた。ええっ!?!
アクセサリーも作るんですか?

「はい、ビーズを使ったこんなと
か。バッグの金具を応用したこの
タイプは人気でした」と素敵な製
品の数々を見せてくれる。なにか
を作り始めると、他の分野のアイ
ディアがどんどん出てくるんです
よね。料理を作るとときにアク
セサリーのアイデアとか」

料理? 料理もお得意なんです
か? 「ええ、料理のケータリン
グもしていました」。三たび、きょ
んとしていると、純代さんは自
宅で料理教室「SUMIYOS COOKING」
も主宰していることを教えてくれ
る。「お客様をたくさん迎える家
に育ったんです。おもてなし料理が
上手な父の手伝いをしながら、ほ
んどにごく自然に覚えた料理ばっ
かりなんですけど。料理もやはり、
冷蔵庫を開けて、目の前の素材を
見ながらインスピレーションを得
ることが多いかな」。

さらに、大手のインテリアショ
ップで、インテリア・コーディネ
イトの仕事やモデルルームのスタ
イルングも手がけている、という
ことを聞いても、もうさほど驚か
ない。というか驚きの感覚がマヒ
したというか。つまり、純代さん
は衣食住にわたる〈多種多様〉な
分野において、純代流の創作を任
事している人なのである。ライ
フスタイル・コーディネーター、
とか、マルチプランナー、みたい

Who's who ⑦

かばん工房

福井純代 36歳

最近流行のカタカナの肩書かぶ
とアタマをよぎったが、「ファッ
ション誌はぜんぜん見ない。ふだん
の生活のなかから、わたしが自然
に好きと思えて、お客様にも喜ん
でもらえるものを作りたい」とい
う純代さんには、あまり「ファッ
ションナブル」な肩書は似合わない
気もする。

地に足がついた感覚を大切にし、
「作ることは一生、ですから」とチ
ャーミングに微笑む純代さんを、
生活美装人、とか、生活創作人、
とお呼びしたいと思っただけです
が、ダメですか? ■

中野香織 文

text:Kaori Nakano

福知彰子 写真

photographer: Akiko Fukuchi